



連載の解説版「もう一つの『発達のなかの煌めき』」第八回は、こちらから見ることができます。

おさえている子…。表現の仕方は実に個性的ですが、職員の辞めざるを得ないやるせない思い、子どもたちを残していく自責の念、子どもたちと一緒に紡いできた日々への想いがないまぜになっていたであろう涙の奥にあるものを感じ取り、悲しみを分かちあつていています。

友だち同士の食事の場面では、それぞれにまひや知的障害のために自分の動き、リズムをコントロールすることがむずかしい子どもたちが、友だちに食事を食べさせています。重いまひがあつて寝転んでいる友だちの口元に、座っている子がごはんをのせたスプーンをさしだします。タイミングよく口を開けることができないので、いつたん引いて、しばらくしてもう一度スプーンをさしだします。それを二、三度繰り返します。相手の動きを大切なものとして待つような姿です。そして、相手を導くように、口を大きくあけます。食べている子は、そのかかわりが嬉しくて、思わず口を大きくあけて笑います。

別の女の子は、お皿の上で軽くトントンさせてから、スプーンを友だちにさしだし、動きをとめてじっと待ちます。友だちの口が開かないとき、お皿にスプーン

を戻して、そこでまたトントン…。皿にあてるスプーンの動きは彼女の内なるリズムなのでしょう。相手によつて自分のリズムがひき出され、また相手にあわせていく…まるで一緒に音を奏であつているようなシーンです。

直後の映像は、「一歳半の節」を乗り越えるための「生後第二の新しい発達の力」を誕生させるところで努力している子どもたちのリズム遊び。輪になつた子どもたちが、音楽にあわせてひもを揺らすと、友だちにリズムが伝わっていきます。

導き、導かれる

残念ながら彼らは、就学年齢を迎えたながらも、学校教育に拒否され、社会の主人公になる歩みに大きな枷かせをはめられました。

映画では生間くんという少年（彼は、耳が聞こえません）が、学校に行きたいのに行けないという思いをぶつけるかのように、壁や窓ガラスにマジックで文字のようなものを書きなぐっているシーンがあります。その表情は険しく、顔には強いチックが出ています。

生間くんは、野洲川の河原での園外療



第I部

障害のある子ども・なかまの発達

発達のなかの煌めき

白石正久 白石恵理子

しらいし まさひさ／1957年、群馬県生まれ。小児科病院の発達相談員などを経て、現在龍谷大学名誉教授。

しらいし えりこ／1960年、福井県生まれ。大津市発達相談員などを経て、現在滋賀大学教育学部教授。

第10回 導き、導かれる関係のなかで自分を育てる

十二月号では、二分的評価にとらわれやすい「四歳の節」で長く留まつていたシゲちゃんが、大好きなラーメン屋さんになるという夢を鉤に、未来と社会に一小歩をすすめ、さらに仲間とねがいを共有する関係のなかで「だんだん大きくなる」三次元の世界を切り開いていた姿を述べました。

この「三次元形成期」（五歳後半～六歳）は、「生後第三の新しい発達の力」が誕生する時期になります。すなわち、次の大きな質的転換期である「九歳の節」につながる大切な土台を築く時期でもあるのです。

「夜明け前の子どもたち」から

びわこ学園（重症心身障害児施設・当時）の療育記録映画「夜明け前の子どもたち」（一九六八年公開）のなかにも、この「生後第三の新しい発達の力」を誕生させている子どもたちが登場します。退職することになった職員とのお別れの場面では、職員に抱きつき、手をとりあって泣く子、肢体不自由のため身体は動かせないけれど目にじわっと涙を浮かべる子、隣にある車いすにもたれかかり、歯をくいしばるようにして悲しみを

育活動では、友だちとペアになつて石を運ぶようになります。ある日、「一歳半の節」にあるとされるなべちゃんと一緒に石運びをしました。なべちゃんも耳が聞こえないのですが、「目を離すとどこへ行くかわからない」ために、園内では白いひもでくくられ、行動範囲が二、三メートルに制限されていました。「ひもをなくすべきだ」「ただでさえ人手がないのに、どこに行つたかわからないなべちゃんを誰が探すのか」「なべちゃんに誰かがついたら、他の子たちはどうなるのか」と激しい議論を繰り返す職員たちの姿も映し出されます。このなべちゃんが真にひもから解き放たれるためには、職員に、なべちゃんのなかにある発達的な力に気づき、そこに確信をもつていく過程、すなわち職員側がひもから解き放たれることが必要でした。その発達的な力を發揮する場面の一つが、野洲川の河原での石運びという園外療育活動だったのです。子どもたちが集めた石で学園内にブールをつくろうという壮大な計画のもとにとりくまれていました。

なべちゃんと生間くんは、両側に持ち手のついた容器をもつて石を運ぶのです。子どもたちが集めた石で学園内にブールをつくろうという壮大な計画のもとにとりくまれていました。